

令和3年度 IR 推進センター 事業実施報告

1) 概要

IR 推進センター (Institutional Research Center) は、大学の教育研究に関する目標・事業計画の進捗状況の評価に必要なデータ及び分析結果の提供を行い、全学的な教育研究活動における適切な PDCA の推進を支援することを目的に、令和2年4月に設置されました。学内の各部署に蓄積されている入学前～卒後に至る多様なデータを統合・分析し、学生募集、教育研究活動、卒後支援に係る効果的なエンロールメント・マネジメント (入試～卒後までを一貫してサポートする総合的な学生支援策) に関する情報を管理し、各学部等からの分析依頼に対して結果をフィードバックするとともに、収集したデータに基づき、各学部等に対して改善施策の提案を行うのを主な業務としています。

2) 組織

- ・センター長 (副学長 (教育・研究担当)) 1名
- ・副センター長 (准教授) 1名
- ・担当教員 (助教) 1名
- ・事務担当 1名
- ・補助職員 1名

3) 沿革

令和2年4月 IR 推進センター設置

上田陽一副学長がセンター長となる。前田理恵子が事務担当となる。

令和3年1月 井上彰臣が副センター長 (准教授) となる。井上由貴子が助教となる。

大野麻樹子が補助職員となる。

4) スタッフ (令和3年4月現在)

氏名	職名
上田 陽 一	副学長・センター長・医学部 第1生理学講座 教授
井上 彰 臣	副センター長・准教授 (専任)
井上由貴子	助教 (専任)
前田理恵子	事務担当・大学事務部 大学管理課長代理
大野麻樹子	補助職員 (専任)

5) 令和3年度の活動内容

- ・ IR 推進センター運営会議の開催（全4回）
- ・ 産業医科大学ニュース 670号（令和3年7月号）への寄稿（IR 推進センターの紹介）
- ・ IR 推進センター公式ホームページの開設（開設日：令和3年9月1日）
URL: https://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/irsc/intro_j.html
- ・ 年次報告（医学部 医学科、産業保健学部 看護学科、産業保健学部 産業衛生科学科／環境マネジメント学科）の作成
- ・ 第39回産業医科大学学会総会および「医療系 IR 友の会」第2回実践会での活動報告

<IR 推進センター運営会議の議事概要>

回数	開催日	主な議題
第1回	令和3年4月30日	令和2年度 事業実施報告（案） 令和3年度 事業実施計画・予算実施計画（案） 令和3年度 大学教育・研究に関する目標・事業計画（案） 産業医科大学アセスメントプラン（案）
第2回	令和3年7月9日	IR 推進センター運営会議 構成員名簿（案） 令和2年度 予算実績報告（案） 産業医科大学アセスメントプラン（案）
第3回	令和3年10月14日	IR 推進センターのデータ提供による論文作成等 令和3年度 大学教育・研究に関する目標・事業計画（案） （中間評価） 令和2年度 事業実施報告のホームページ掲載 令和2年度 医学部 年次報告（案）
第4回	令和4年1月27日	令和4年度 事業実施計画・予算実施計画（案） 分析支援申請書の改訂（案） 令和2年度 産業保健学部 年次報告（案）

6) 令和3年度の活動実績

6-1. 分析支援実績（申請番号および分析支援内容）

- R3-001 高校の評点と卒業年数
- R3-002 対面講義とオンライン講義の学修効果比較
- R3-003 入試制度・大学入試センター試験得点と卒業年数・コース選択・コース離脱
- R3-004 出身地・初期研修病院エリア別のコース離脱状況
- R3-005 大学入試センター試験成績の年次推移
- R3-006 入試配点得点別のストレート卒業率
- R3-007 現浪区別のストレート卒業率
- R3-008 総合試験等の得点・順位とコース離脱
- R3-009 指導学生面談調査の単純集計
- R3-010 成績優秀者等のコース離脱状況

- R3-011 総合試験等の成績と留年
- R3-012 大学入試センター試験の傾斜後配点案と卒業年数
- R3-013 大学入試センター試験の傾斜後配点案と6年次総合試験Ⅱの得点
- R3-014 進学校からの一般選抜入学者の高校評点分布
- R3-015 5年次「産業医学現場実習」の配属先と卒後のコース選択
- R3-016 3年次「基礎総合試験」下位学生の成績推移
- R3-017 指導学生面談調査と令和2年度成績との関連
- R3-018 推薦入学者における地域ブロック別のコース離脱状況
- R3-019 指導学生面談調査と令和3年度6年次総合試験成績との関連
- R3-020 授業アンケートの単純集計・デバイス環境と学修指標との関連等
- R3-021 医学部一般選抜志願者減少の背景要因の検討
- R3-022 医学部一般選抜志願者数の将来推計
- R3-023 1年次の成績と5～6年次の成績との関連
- R3-024 医学部一般選抜における学力検査の順位と小論文の順位との関連
- R3-025 5年次総合試験Ⅱの成績下位5位の学生の成績推移
- R3-026 6年次進級時点の留年既往の有無別の卒業・医師国家試験合格状況

6-2. 企画支援実績（内容および対応する分析支援の申請番号）

- ① 医学部の入試改革に活用可能な情報の提供（R3-001、R3-003、R3-004、R3-005、R3-006、R3-007、R3-012、R3-013、R3-014、R3-018、R3-021、R3-022、R3-024）
- ② 特待生制度の見直しに活用可能な情報の提供（R3-010）

7) 令和3年度の教育業績（専任教員）

< 卒前教育 >

産業保健学部：疫学基礎、疫学応用

< 卒後教育 >

医学部：産業医学総合実習（D. 「メンタルヘルス」）

産業医学基本講座（東京開催）（メンタルヘルス対策実習）

8) 令和3年度の研究業績（専任教員）

- ・ 市倉加奈子, 守屋利佳, 千葉宏毅, 井上彰臣, 島津明人, 堤 明純. 対応困難な患者を想定した模擬患者との医療面接演習に関する実践報告. 日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌 2021; 12(1): 51-55.
- ・ 廣川空美, 森口次郎, 脊尾大雅, 野村洋子, 野村恭子, 大平哲也, 伊藤弘人, 井上彰臣, 堤 明純. メンタルヘルス対策：職域と地域の連携のギャップを埋めるために. 日本公衆衛生雑誌 2021; 68(5): 311-319.
- ・ 井上由貴子, 中田光紀, 栗岡住子, 永田智久, 森 晃爾. 介護施設従業員における主観的健康感と炎症マーカーの関連. 産業衛生学雑誌 2021; 63(4): 117-128.

- Hidaka Y, Imamura K, Watanabe K, Tsutsumi A, Shimazu A, Inoue A, Hiro H, Odagiri Y, Asai Y, Yoshikawa T, Yoshikawa E, Kawakami N. Associations between work-related stressors and QALY in a general working population in Japan: a cross-sectional study. *Int Arch Occup Environ Health* 2021; 94(6): 1375–1383.
- 千葉宏毅, 井上彰臣, 守屋利佳, 島津明人, 市倉加奈子, 堤 明純. 医療系の学生間ロール・プレイ演習を促進する積極的傾聴学習に関する動画教材の開発. *日本シミュレーション医療教育学会雑誌* 2021; 9: 64–71.
- Eguchi H, Inoue A, Kachi Y, Tsutsumi A. Association between adaptation of management philosophy and mission statement, and work engagement among Japanese workers: a 1-year prospective cohort study in a Japanese company. *J Occup Environ Med* 2021; 63(9): e601–e604.
- Inoue A, Eguchi H, Kachi Y, Tsutsumi A. Organizational justice and cognitive failures in Japanese employees: a cross-sectional study. *J Occup Environ Med* 2021; 63(10): 901–906.
- Eguchi H, Hino A, Inoue A, Tsuji M, Tateishi S, Ando H, Nagata T, Matsuda S, Fujino Y. Effect of anxiety about COVID-19 infection in the workplace on the association between job demands and psychological distress. *Front Public Health* 2021; 9: 722071.
- Oshio T, Tsutsumi A, Inoue A. Determining whether periodic health checkups have any preventive effect on deterioration in health among middle-aged adults: a hazards model analysis in Japan. *J Occup Health* 2021; 63(1): e12291.
- Eguchi H, Sasaki J, Inoue A, Tateishi S. Factors related to oncologists' use of the treatment and employment support guidance fee. *J UOEH* 2021; 43(4): 427–432.
- Inoue A, Eguchi H, Kachi Y, McLinton SS, Dollard MF, Tsutsumi A. Reliability and validity of the Japanese version of the 12-item psychosocial safety climate scale (PSC-12J). *Int J Environ Res Public Health* 2021; 18(24): 12954.
- Oshio T, Inoue A, Tsutsumi A. Role ambiguity as an amplifier of the association between job stressors and workers' psychological ill-being: evidence from an occupational survey in Japan. *J Occup Health* 2021; 63(1): e12310.
- 江口 尚, 井上彰臣. 小規模事業場におけるストレスチェック制度の実施を促進するうえでの課題. *産業医学ジャーナル* 2022; 45(1): 4–8.
- 井上由貴子. 本の紹介「ヒトはなぜ先延ばしをしてしまうのか」. *行動医学研究* 2022; 26(2): 137.
- Hino A, Inoue A, Mafune K, Tsuji M, Tateishi S, Ogami A, Nagata T, Muramatsu K, Fujino Y. Association between long working hours and psychological distress: the effect modification by request to stay home when sick in the workplace during the COVID-19 pandemic. *Int J Environ Res Public Health* 2022; 19(7): 3907.